

2. 非婚・晩婚の母子保健学的研究 (第2報)

母子保健研究部 宮原 忍・千賀 悠子
齋藤 幸子
児童家庭福祉研究部 高橋 重宏
昭和大学医学部公衆衛生学教室 星山 佳治

要約

晩婚傾向と将来の子どもを産み、育てることとの関連を知るために、若い女性の結婚観と将来の母親としての自己像を調査した。今回の分析対象は未婚の女子大学生554例である。現代女性の結婚志向は決して低下していないが、理想を犠牲にして意志に沿わない結婚をするつもりはなく、これが結果として晩婚傾向に結びつく可能性があると考えられた。

将来像を自分が理想とするものと実際になるであろう姿を尋ねたが、子どもを将来持たないだろうとするものは、理想、実際とも10%程度にとどまった。子どもの育児のために仕事をいったん退職し、子育て後再就職することを考えているものは、理想像より、実際像で多く、子どもと仕事のあいだで、揺れている気持ちが表れている。

将来の母親像については、自分の将来なるであろう母親像、なりたいと考える母親像、社会の期待する母親像を分けて聞いた。因子分析で、将来像では「自己犠牲的養育因子」、「包容的情緒因子」、「意志的行動因子」が、志向像では「意志的行動因子」、「献身的養育因子」、「包容的情緒因子」が、期待像では「穏和な情緒性+自己犠牲的養育因子」、「明朗な情緒性+意志的行動因子」、「包容的情緒因子」が、それぞれ、第1ないし第3因子として抽出された。これから、母親の特性として「養育性」、「情緒性」、「行動力」を重視していることが明らかになったが、他方、父親像も母親像と重なる部分が大きく、養育性において、父親役割と母親役割はあまり区別されていないと思われた。

キー・ワード：婚姻、低出生率、母性性、子育て

An MCH Study on Negative Attitude toward Nuptiality

Shinobu MIYAHARA, Yuko CHIGA, Sachiko SAITO,
Shigehiro TAKAHASHI, Yoshiharu HOSHIYAMA

Summary: The young women's view of marriage and the images of future selves as mothers were surveyed in order to investigate the relationship between the recent tendency toward the late marriage and that of childbearing and childrearing.

Although the eagerness of the young women toward marriage was not decreased, they did not want to marry at the sacrifice of their ideals. This attitude might be a factor for the late marriage.

The future life course of selves in their conjecture and in their wish were inquired. Only 10% of the young women answered they would have no child in the future. Ambivalent feeling was expressed by many between the maternal role and their future careers.

Maternal images of future selves in conjecture, in their wish and their idea of the expectation of the society were inquired. The factor analysis revealed they attached importance to "nursing ability", "emotional richness", and "ability of act." Paternal images were also inquired and shown to have the great similarity to maternal images.

Key Words: marriage, celibacy, low birth rate

I はじめに

我が国の出生率の低下は、労働力や高齢者の扶養などに関し、将来の不安が指摘されているが、その背景に最近の晩婚傾向があり、また、非婚傾向の存在も懸念されている。

われわれは第1報において、我が国の非婚・晩婚傾向に関する最近の諸調査を展望し、その結果、晩婚傾向が出生率の低下の主要な要素となっていること、晩婚傾向と配偶者選択の関係、家族像の変貌、ジェンダー・ロールの変化とそれともなう女性のライフコースのシフトなどが浮き彫りにされた¹⁾。

出生率の低下や、あるいは晩婚傾向のみをみれば、個人個人が自由にライフスタイルを選択できるようになったと理解できよう。だが、ライフスタイルを自由に選択する青年達の意識や心のあり様は、その後の人生における子どもを産み育てること等によどのような影響を与えるのであろうか。現代の青年達は将来どのような子ども観や養育態度を持つのであろうか。

次世代の子ども達は、どのような養育環境におかれようとしているのかを検討することは今日的に意味がある。

そこで、今回われわれは、若い女性たちがどのような結婚観を持ち、それが自分たちの将来の母親としてのイメージ、あるいは自分たちの将来の夫の父親としてのイメージとどう関わるかを調査した。

本年は、その一部として、「結婚とライフコースに関する調査」、「親イメージに関する調査」のそれぞれ概要を報告する。

II 目的と方法

若い未婚女性の〈結婚やライフコースに関する考え〉と〈親イメージ〉を調べ、実際の結婚に及ぼす影響、および親となった時の母子保健へ影響を検討する。

研究方法は、大学および短期大学に在学中の女子学生を対象にアンケート調査を行い、回答を分析した。調査内容は〈対象の成育歴〉〈結婚観〉〈人生の生き方のタイプ〉〈出生率低下、非婚・晩婚傾向に関する意見〉〈母親・父親イメージ〉である。調査票作成当たって、厚生省人口問題研究所「第10回出生動向基本調査(独身者調査)」²⁾を参考にした。

調査場所は、東京都、横浜市、相模原市、名古屋市の短期大学1カ所、大学6カ所の計7カ所。アンケー

ト配布数は581で、学生の専攻は福祉、教育、心理、看護が85%、その他の社会科学系15%であった。集団調査法によりその場で回収したので回収率はほぼ100%である。このうち既婚者と30歳以上の者を除き、未婚、30歳未満の有効回答554について集計分析した。

〔調査対象の概要〕

年齢：20歳未満384(70.6%)、20~24歳154(28.3%)、25~29歳9(1.7%)、無回答7(1.3%)。

きょうだい人数(本人を含む)：1人32(5.8%)、2人355(64.1%)、3人141(25.5%)、4人18(3.2%)、5人2(0.4%)、無回答6(1.1%)。

両親が結婚した時の年齢：父は34歳以下524(94.6%)、35歳以上18(3.2%)、該当なし1(0.2%)、無回答11(2.0%)、母は29歳以下524(94.6%)、30歳以上16(2.9%)、該当なし2(0.4%)、無回答12(2.2%)。

母の就業：一人で暮らせる程度以上の収入のある仕事について〈記憶では私の子どもの頃、母はそのような仕事をしてた〉「はい」169(30.0%)・「いいえ」351(63.4%)・無回答34(6.1%)、〈現在、母はそのような仕事についている〉「はい」161(29.1%)・「いいえ」371(67.0%)・無回答22(4.0%)。

中学校以降の共学か別学か、現在同居している人、育った家族の形態については表1-1~1-3に示した。

本年度は集計資料から以下の結果について報告する。

- 1 「結婚とライフコース」に関する項目の単純集計結果とクロス集計結果の一部
- 2 「親イメージ」に関する項目の平均得点と因子分析結果

III 結果

III-1 結婚とライフコースに関する考え

1 目的

若い未婚女性の「結婚志向」・「人生の生き方の理想像と実際像」・「非婚・晩婚傾向に関する一般論」についての考えや意識を調査し、非婚・晩婚化傾向にある青年層の意識や態度について分析する。

2 結果

(1) 結婚志向について

表1-4〈結婚に関する考え〉では、「一生結婚するつもりはない」は7(0.4%)にとどまり、調査対象の

ほとんどに結婚志向が認められた。しかし、その内訳は「理想的な相手が見つければ結婚するつもり」という条件付きのものが317 (57.2%) と多く、これに比べ「現在相手はいないが、ある程度の年齢までに結婚するつもり」という適齢期を意識するものは171 (30.9%) と少ない。妥協せず理想の結婚を追い求める傾向が強いと言える。

表1-5 <結婚したい年齢>は「24歳までに結婚したい」が90 (16.2%)、「25~29歳までに」が356 (64.3%) と30歳未満までに結婚したいものが計446 (80.5%) を占めた。次いで「年齢は関係ない」62 (11.2%)、「30~34歳まで」は28 (5.1%) であった。現在の考えとしては、30歳以降の晩婚傾向は認められないが、前項(表1-4)との関連で推察すれば、理想の結婚を追い求めた結果の実際の結婚年齢は、より高い方へシフトすることは予測されよう。

表1-6 <結婚相手の年齢の希望>では、「自分より年上がよい」208 (37.5%) が最も多く、次いで「年齢にはこだわらない」193 (34.5%)、「自分と同年齢くらいがよい」119 (21.5%) で、「自分より年下がよい」は12 (2.2%) と一時マスコミで話題となったような「姉さん女房志向」は認められない。

(2) 結婚へのプレッシャーについて

表1-7 <友人の多くが結婚し自分だけ結婚していない場合、どのように感じると思うか>では、「すこしあせりを感じると思う」319 (57.6%) が最も多く、「あせりを感じると思う」90 (16.2%) と「かなりあせりを感じて、出来ればすぐにでも結婚したいと思う」23 (4.2%) を合わせると、全体の7.8%があせりを感じている。

表1-8 <30歳になって結婚相手が決まっていなかった場合、結婚に対する周りのプレッシャーが高まったらどう思うと思うか>では、「そろそろ結婚を考えるだろうが、積極的行動は起こさず成り行きにまかせるだろう」が335 (60.5%) と多く、これに比べ「結婚相手を見つめるための具体的行動を起こすだろう」は120 (21.7%) と少ない。「理想と多少違っても、妥協して結婚することを考えるだろう」は24 (4.3%) と僅かである。

表1-7、1-8の結果から、将来自分の結婚に対するプレッシャーが高まった時、あせったり動揺したりするであろうが、その程度は弱く「結婚相手を見つけるための具体的行動は起こさない」と考えている者が多いことが分かった。しかも、「妥協して結婚する」は

ごく僅かであるので、将来結婚のプレッシャーが高まったとしても、あくまでマイペースで理想はあきらめないという、結果的に晩婚傾向になるであろうことが伺える。

(3) 女性の生き方のタイプ「理想と実際」

表1-9 <女性の生き方のタイプ>はA欄が「現実と切り離しあなたが理想とする人生のタイプ」、B欄が「あなたが実際になりそうな人生のタイプ」を選択してもらった結果である。

はじめに両者を概観すると、A:理想に比べB:実際の方が%が低いものは選択肢1.「結婚も仕事もしないで、自由に生きたい」(A理想:5.2%、B実際:0.9%)と5.「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」(A理想:24.7%、B実際:14.4%)のように「自由に生きたい」を含むもの、選択肢3.「結婚はするが、子どもを持たずに、仕事を一生続ける」(A理想:3.8%、B実際:2.5%)、6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」(A理想:22.0%、B実際:9.0%)のように「一生仕事を続けたい」を含むものであり、「自由」「仕事を続けること」を望んでいても、実際は理想どおりにいかないことを認識していると考えられる。

8つの選択肢を<結婚><子ども><仕事>の項目別に集計すると、表1-9・下欄のとおりである。

「結婚する」(表9の選択肢3.4.5.6.7.8の合計)はA理想が502 (90.6%)、B実際が505 (91.2%)といずれも、ほとんどが結婚を人生の選択肢として選んでいる。

「子どもを持つか否か」では「持つ」(表9の選択肢6.7.8の合計)はA理想:340 (61.4%)、B実際:410 (74.0%)と理想より実際の方が高い%である。

「仕事」では、「一生仕事を続ける」がA理想:153 (27.6%)、B実際:94 (17.4%)と理想の方が高く、結婚や育児のための「就業の中断後、再就職」はA理想:161 (29.1%)、B実際:259 (46.8%)、「退職」はA理想:57 (10.3%)、B実際:101 (18.2%)はそれぞれ理想より実際の方が高くなっている。このように「結婚」については、理想、実際ともに90%程度の高い選択率であるが、仕事と子どもについては理想と実際でギャップが認められた。以下、このギャップを詳しく検討していきたい。

<A:理想のタイプ>では選択肢5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」24.7%、6「結婚して子どもを持ち、仕事を

では「少し～非常に」を合わせた「そう思う」の割合多い順にあげると以下のとおりである。

順位（設問NO）

- 1 (6) 女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである (93.5%)
- 2 (11) 独身生活の方がレジャーを楽しめるからである (91.2%)
- 3 (1) 男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのためである (76.0%)
- 4 (12) 結婚しなくても特に非難されないからである (74.4%)
- 5 (9) 住宅や子育てなどの環境が整っていないからである (72.0%)
- 6 (10) 親と一緒に暮らしていて不自由さを感じないからである (66.4%)
- 7 (5) マザコン、ファザコンの若者がふえたからである (62.1%)
- 8 (4) 男性が性格的に弱くなったからである (61.4%)
- 9 (8) 家事代行やコンビニの普及で一人でも生活していけるからである (60.8%)
- 10 (2) 異性と知り合うチャンスやゆとりが少ないからである (59.9%)
- 11 (8) 対人関係が苦手な若者がふえたせいである (50.0%)
- 12 (7) 結婚しなくても、セックスが自由にできるからである (48.9%)

歴><独身生活の楽しみ><住宅や育児環境の整備不足>といういわば「社会環境的な理由」が上位で、若い世代自体の「対人関係やパーソナリティの変化」は非婚・晩婚の理由としては比較的下位であった。

このように「女性の社会的立場の変化」「住宅や育児環境など社会環境の整備の必要性」「独身の利点」は非婚晩婚傾向の理由として既に指摘されているとおりである。しかし、これ以外に3位で<男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのため> (76%) があげられていること、<男性が性格的に弱くなった><マザコン、ファザコンの若者がふえた>のように若者の内面に関わる項目も60%台で肯定されていることは特筆すべきであり、若い女性の結婚志向を非婚・晩婚傾向に招く原因として「現在の若い世代の内面の状況」を更に分析する必要があると思われる。

文献

- 1) 宮原 忍他：非婚・晩婚の母子保健学的研究（第1報）日本総合愛育研究所紀要 第31集, p. 55-68, 1995
- 2) 厚生省人口問題研究所：平成4年独身青年層の結婚観と子供観—第10回出生動向基本調査, 1994年4月, 厚生統計協会。

III-2 母親イメージ及び父親イメージ

1 目的と方法

未婚女性の母性・父性意識を心理学的な態度・行動という面で捉え、未婚女性の母親イメージと将来の夫に望む父親イメージを探る目的で、次のような調査を実施した。

調査は、親の役割に対する態度・行動の要因を形成すると言われている母親及び父親イメージについて30項目を作成し、各項目について【①非常にそうは思わないから⑦非常にそう思う】までの7段階スケールで質問した。

【調査内容について】

下記に調査内容の概要について記す。

* 親特性を見る尺度としての30項目は、下記の研究を参考に作成した。(表2-1)を参照。

なお、この質問項目は分担研究者千賀が1992年「子育てと仕事の両立を図るための母性・父性の役割研究」¹⁾において作成したものである。

今回はこの前研究との比較検討の意味もあり同項目を

このように用意した設問はほぼすべてを過半数が肯定しており、いずれも「非婚・晩婚」の理由として捉えられていること分かった。

その中で圧倒的に多いのが1位<女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである>93.5%、2位<独身生活の方がレジャーを楽しめるからである>91.2%である。特に、前者は「非常にそう思う」38.5%、「そう思う」42.6%と、後者の「そう思う」40.8%、「少しそう思う」31.1%に比べて肯定度が強い。以下、4位<結婚しなくても特に非難されないからである>など上位には「社会環境的な理由」が並んでいる。

一方、下位には12位<対人関係が苦手な若者がふえたせいである>、11位<結婚しなくても、セックスが自由にできるからである>など若い世代の「対人関係」や8位<男性が性格的に弱くなったからである>など「パーソナリティ」の問題が並んでいる。

すなわち、いずれの項目も理由として肯定意見が過半数と多いが、あえて順位をつければ、<女性の高学

採用した。項目内容及び配列も前研究と同じである。

* 質問項目作成に際して参照した文献

①山口素子²⁾の研究

②COOK, E. P.,⁴⁾ のFeminity, Masculinity尺度

③河合雄雄⁵⁾の母性原理・父性原理を構成する特性

④ E. Bern の交流分析に用いられている父親特性・母親特性・成人特性(成熟性、理性、客観性、論理性等)そして子ども特性(従順な受け身の態度や、感情の豊かな自由で能動的な態度)をみる質問項目。

* 3つの母親イメージと父親イメージについて

[将来の母親イメージ] - 将来、あなたはどのような母親になると思いますかと、自分がなりそうな・予想される母親イメージについて。以下、(将来像)と記す。

[志向する母親イメージ] - 将来、あなたはどのような母親になりたいですかと、志向・理想とする母親イメージについて。以下、(志向像)。

[社会が期待する母親イメージ] - 日本の社会ではどのような母親を期待していると思いますかと、社会が期待する母親イメージについて。以下、(期待像)。

* 父親イメージについて

[あなたが望む父親イメージ] - 将来の伴侶(夫)にどのような父親になってもらいたいかと、上記と同項目の質問。

検討及び考察は以下のように行った。

- * 各母親イメージの特徴を平均得点より検討
- * 各母親イメージ間の相関
- * 各母親イメージの因子分析
- * 父親イメージの検討
- * 考察
- * おわりに

2 結果

(1) 各母親イメージの特徴を平均得点より検討

(表2-1)

30項目の平均得点の高い順に表に示した。

A 各母親イメージの平均得点

[将来の母親イメージ]

母親イメージの平均得点は3.0~5.1に分布しており、それは「ややそう思わない~ややそう思う」の回答であり、平均得点の上からは母親イメージが明確に捉えられていない傾向がある。

* 「ややそう思う」という傾向を示す得点 4.5 以上は14項目。平均得点順では<共感的 5.1><思いやりのある・感情表現の豊かな・現実的な・世話をする・好奇心旺盛な 5.0>等。

* 「ややそう思わない」という傾向を示す得点3.4 以下は1項目で<支配的 3.0>である。

対象の未婚女性が将来なるであろうと描く母親イメージの特徴は、強いて言えば共感的で思いやりがあり、かつ感情表現が豊かで好奇心があり、現実的に物事をとらえ、世話をする>傾向があるといえよう。また、情緒に関する項目の得点が比較的高い。

[志向する母親イメージ]

得点の分布は2.6~6.3で、「かなりそうは思わない」から「かなりそう思う」までの範囲である。志向する母親イメージは明確に描かれている。

* 「かなりそう思う」という傾向を示す得点5.5 以上は11項目。平均得点順では、<視野が広い 6.3><思いやりのある 6.2><感情表現の豊かな 5.9><穏やかな・包み込むような・共感的 5.8><頼もしい 5.7><家族を支える・素直な 5.6><決断力のある 5.5>等である。

* 「そうは思わない」傾向を示す得点3.4 以下は2項目で、<自己本位な 2.6><依存的な 3.1>の項目である。

将来、志向する母親イメージの特徴は、<視野を広く持ち決断力があり頼もしく、そして思いやりと素直さがある母親で、感情表現が豊かで好奇心もある>傾向といえよう。

(志向像)が(将来像)と異なるのは、意志をもって行動する母親イメージがあることである。

[社会が期待する母親イメージ]

得点の分布は2.6~6.2で「かなりそうは思わない」から「かなりそう思う」までの範囲である。社会が期待する母親イメージは明確に描かれている。

* 「かなりそう思う」という傾向を示す得点5.5 以上は11項目。平均得点順では、<思いやりのある 6.2><世話をする 5.9><包み込むような 5.9><耐えることができる 5.9><社会の常識を重視する 5.9>。

* 「そうは思わない」傾向を示す得点3.4 以下は2項目で、<自己本位な 2.6><支配的な 3.0>の項目である。

社会が期待する母親イメージの特徴は、＜社会の常識を重視しながら献身性と忍耐を持ち、そして思いやりをもって世話をする＞傾向がある。

B 各母親イメージの平均値の比較

（将来像）と（志向像）及び（期待像）間のそれぞれの項目の平均値の差の検定（t検定）を行った。

その結果、これら3つの母親像間で1%または5%で有意差が認められた項目を次に示す。

- * [世話・耐える・献身的・待つ]の項目の平均得点は、1%または5%の有意差をもって将来像よりも志向像が、志向像よりも期待像が、当然将来像よりも期待像の方の平均得点が高かった。これを不等号で表すと以下ようになる。（なお、特記のない項目は全て1%の有意差が認められた）

将来像<志向像<期待像

なお、[世話]の将来像と志向像、そして[待つ]の志向像と期待像は5%有意差であり、これ以外は全て1%有意差である。

- * [共感・思いやり・穏やか・家族を支える]は、

将来像<志向像・期待像

- * [社会の常識を重んじる・現実的]は、

将来像・志向像<期待像

- * [好奇心旺盛な・包み込む]は、

期待像<将来像<志向像

なお、＜包み込む＞の志向像と期待像は5%有意、これ以外は全て1%有意

- * [頼もしい・視野が広い・決断力・感情豊かな・素直]は、

将来像<期待像<志向像

- * [支配性]は、

志向像<将来像・期待像

- * [自己本位な]は、

志向像・期待像<将来像

未婚女性が自分が将来なるであろう、あるいはなりたいと志向する母親イメージと、社会が期待している母親イメージとを比較すると、前者の未婚女性は＜社会の常識をそれほど重視せず好奇心旺盛＞なところがある。

総合して見ると、未婚女性が自分自身のイメージとして将来像や志向像に描く母親像は、＜やさしく世話をする母親であるが、しかし社会の常識にとらわれることは少なく、自分の価値観や生活観にそって物事を処していく傾向がある。また、理想の母親像としては視野の広さや決断力のある頼もしい面も持った母親イ

メージ>を描いていると推察できよう。

（2）各母親イメージ間の相関

各母親イメージ間の相関を（表2-2）に示す。

各母親イメージ間の相関は高い傾向がある。（志向像）と（期待像）との相関は0.78である。前調査¹⁾では（志向像）と（期待像）の間のみ相関が認められ0.94であった。

各母親イメージの平均得点では各々の母親イメージ間の差異もあり、各々の特徴が認められた。だが、各母親イメージ間の相関が高く類似性もある。

これは、各母親イメージで[世話等の養育性]や[思いやり・穏やかなどの情緒性]などの項目が上位に占めていることや、平均得点の傾向が類似していることによるものと考えられる。

（将来像）と（志向像）の特徴に差異が認められたが、相関係数は0.66ある。これについては次の様に考える。

自分の将来像を描く場合には、自分が不得手することや価値観の異なることを敢えて選択しないように、社会の常識は余り重んじないとか好奇心旺盛である傾向等が両者に共通していることが、相関係数の高さに影響を与えているのではないだろうか。

（志向像）と（期待像）の相関係数は0.78である。これは、多くの項目で両者ともに平均得点が（将来像）よりも高い傾向があること。また、世話等の[養育性]・共感等の[情緒性]・決断力等の[意志・行動性]等では何れも両者の得点は高い傾向があると考えられる。

この相関係数の高さ等を分析し、母親イメージ間の類似性と差異の特徴を明かにする目的で因子分析を行ったので次に示す。

（3）各母親イメージの因子分析（表2-3）

A 将来の母親イメージ

下記の3つの因子が抽出された。

* 第1因子は献身的・世話・耐える・待つ等という[自己犠牲的養育性]である。

* 第2因子は素直・しなやか・穏やか・純粋・包み込む・思いやりという[包容的情緒性]である。

* 第3因子は決断力・頼もしい・指導力のある・依存的ではないという[意志的行動性]である。

続いて寄与率が低いので表には示さなかったが、第4因子としては厳格・支配的等の[規範性]が、第5因子としては好奇心旺盛・感情表現の豊かなという[明朗な情緒性]が認められた。

B 志向する母親イメージ

下記の3つの因子が抽出された。

- * 第1因子は論理的・決断力・指導力・現実的な・頼もしいという〔意志的行動性〕である。
- * 第2因子は献身的・世話・従順なという〔献身的養育性〕である。
- * 第3因子は純粋・しなやか・素直な・包み込むという〔包容的情緒性〕である。

C 社会が期待する母親イメージ

下記の3つの因子が抽出された。

- * 第1因子は耐える・世話・献身的・従順・待つ・思いやり・穏やか・共感的等で〔温和な情緒性+献身的養育性〕である。
- * 第2因子は感情表現豊かな・視野が広い・好奇心旺盛・決断力・頼もしい・客観的・指導力という〔明らかな情緒性+意志的行動性〕である。
- * 第3因子は純粋・しなやか・素直・包み込むという〔包容的情緒性〕である。

D 3つの母親イメージの比較

3つの母親イメージの因子分析を、相互に比較検討した。

① 将来像と期待像の類似性と差異

将来像と期待像の1因子に〔自己犠牲的養育性〕が抽出された。また、(期待像)の第1因子には(将来像)の第2因子に含まれている温和な情緒性が含まれていることより、この二つの母親イメージには類似性がある。

しかし、(期待像)の第2因子には〔明らかな情緒性+意志的行動性〕が認められているが、(将来像)では第3因子と第5因子である。(期待像)の母親像に行動性と情緒性の要素をイメージしているといえよう。この点が(将来像)との違いである。

② 志向像の特徴

(志向像)の第1因子〔意志的行動因子〕は、(将来像)では第3因子、(期待像)では第2因子。(将来像)の第1・第2因子は、(志向像)では第2・第3因子である。

(志向像)では、従来男性的な要素と考えられてきた意志的行動性が第1因子であり、養育性や情緒性はそれに次ぐ因子である。これは他の(将来像)や(期待像)の母親イメージとは異なる所である。

③ 志向像と期待像の類似性

(志向像)・(期待像)においては〔意志的行動性〕が(将来像)のそれよりも重みづけをもって母親イメージとして位置付けられており、この点が類似してい

る。このことは、対象が学生であり実際の社会生活や子育てや家庭生活の主な担い手としての経験がないので、自分自身に意志的行動性があるかどうか定かではないことによると考える。

(4) 父親イメージの検討

A 父親イメージの平均得点

あなたが望む父親イメージの各項目の平均得点の分布は2.7~6.5で、〔かなりそうは思わない~非常にそう思う〕の間でありイメージが比較的明確である。

「かなりそう思う」という傾向を示す得点5.5以上は13項目。平均得点順では、<家族を支える 6.5><視野の広い 6.5><決断力のある 6.5><頼もしい 6.5><思いやりのある 6.4><包み込む 6.2><指導力 6.0>等である。

「そうは思わない」傾向を示す得点3.4以下は3項目で<支配的 3.1><依存的 3.0><自己本位な 2.7>である。

未婚の女性が描く将来の夫に望む父親イメージは、<視野が広く決断力や指導性があり、家族を支える頼もしさのある父親である。そして包容力があり快活で明朗な父親イメージ>を持っているといえよう。

B 因子分析の結果

第1因子としては、純粋な・耐える・待つ・素直等の項目からなる〔温和な情緒性+自己犠牲的養育性〕が抽出された。

第2因子としては〔包容な情緒性+意志的行動性〕、第3因子としては〔非支配的性〕が抽出された。

第1因子に〔温和な情緒性+自己犠牲養育性〕が抽出されていることから、父親にイメージされるものは、社会が期待している母親イメージと類似している。

自分が理想とする母親イメージでは、意志的行動性を重要視しており、父親には従来から母親的要素といわれている役割を期待している。

3 考 察

(1) 母親イメージについて

A 母親イメージの特徴

各母親イメージに共通して抽出された因子は、<情緒性><行動性><養育性>と命名される因子である。各母親イメージによってその因子の性質は若干異なるが、これらの3つの因子は母親イメージの中核をなす因子と考えられる。

対象の未婚の女性が自分自身の母親イメージとして将来像や志向像として描く母親像は、〔やさしく世話

をする母親である。だが、社会の常識にとらわれることが少なく、好奇心が旺盛である] 傾向がある。社会の常識にとらわれたいくない・好奇心旺盛な所が（社会が期待する母親像）と異なることである。

B 各母親像の特徴

①（将来像）では：

自己犠牲的養育性・包容的情緒性・意志的行動性の因子が抽出され、どちらかと言うと〔優しいタイプの母親〕イメージである。

（期待像）との共通性があり、第1因子に自己犠牲的な養育性がある。

対象の未婚の女性は、母親になるとしたら社会が期待している母親像のように（現在、世間に容認される母親像）、自己犠牲的養育態度で世話をする母親になるだろうと思っている傾向がある。

②（志向像）では：

意志的行動性・献身的養育性・包容的情緒性の因子が抽出され、決断性と指導性があり子どもをリードする母親で、〔キャリアウーマンタイプの母親〕イメージがある。

このように（志向像）ではリーダーシップを持ち、どちらかと言うとく待つ・耐える>等の自己犠牲的な養育性の部分は継承しないが包容的な気持ちで世話をする母親イメージがある。

他の2つの母親像と比較すると、母親イメージの中核的要素が異なるといえよう。

志向像では〔論理的で決断力のある指導的な母親〕になりたいという傾向を示している。将来自分になるであろう母親像とは異なり、母親になる時には意識の上で相当のギャップがあるのではないだろうか。この様に意識にギャップがあることは、結婚観や子育て観にも何らかの影響を及ぼしているのではないだろうか。

未婚の女性が志向する母親像に描く主体的で意志的で行動力のある態度・行動は、母親としてばかりではなく、人生おける理想とする態度・行動とも理解できよう。もしそうであれば、志向する人生の態度・行動が母親になっても充分発揮できない、あるいは選択することが社会的に好まれなかったら、母親になった時のストレスは大きいのではないだろうか。

③（期待像）では：

温和な情緒性+自己犠牲的養育性・明朗な情緒性+意志的行動性・包容的情緒性の因子が抽出され、〔しっかり者タイプの母親〕イメージがある。

他の2つの母親の養育性は、世話をするイメージであるが、（期待像）では思いやりや共感性等の情緒的要素のある養育性として抽出されている。

第2因子の意志的行動性にも感情表現が豊かなや好奇心のあるといった快活な明朗性をもったリーダーシップ性が見られる。（志向像）において第1因子に抽出された意志的行動性では、この様な情緒性を伴った因子としては抽出されていない。

このことは前述もしたが、社会が期待している母親像を描く時には机上論ではなく、現実の母親達の態度・行動をrealityを持ってイメージしていることによるものではないだろうか。

C 3つの母親イメージの類似性と差異について

①（期待像）と（将来像）の母親イメージに描かれる養育性には〔自己犠牲的〕要素があり、この点が類似している。対象の未婚女性の母親イメージには、伝統的な母親像があるといえよう。

②（志向像）の母親イメージには、従来の伝統的な犠牲的に養育をする母親像というよりは意志的に行動でき、そして養育をする母親像がある。将来自分がなるであろう母親像と理想し志向する母親像とのイメージにギャップがある。

（2） 父性イメージについて

第1因子には〔温和な情緒性+自己犠牲的養育性〕が抽出されており、父親にイメージされていることは社会が期待する母親イメージと類似している。対象の未婚女性は、自分が理想とする母親イメージでは意志的行動性を重要視しており、父親イメージには従来から母親的要素といわれている養育性等の役割を期待している。このことについて次のように考察した。

第1に、対象の未婚女性が育った社会的背景の特徴がある。それは、日本経済の高度成長により多くの父親達には企業戦士の労働実情があり、父親の家庭不在、単身赴任等があった。子ども達は、その生育史において家庭おける父親の役割や存在の意味を内在化することができにくい社会的及び家庭的状況が少なからずあったと理解される。

また、対象の未婚女性が母親像の第1因子に世話をする〔養育性〕をイメージしていることは、対象の母親達の約7割が常勤職についたことがなく主婦であったことが、母親イメージを比較的明確に描くことができたのではないだろうか。

第2に、女性の高学歴や職業生活等により、女性は社会生活に生き甲斐や価値を見いだしてきている。経

済的に位置づけられないshadow workである家事や育児に関して、女性の自分が全ての責任をもつ必要がない、また全てを担う必要もないという価値観を持つ女性が少なくはないこと等も対象の未婚女性の価値観に影響を与えているのではないだろうか。

第3には、家庭において女性がイニシアチブを持ちたい、あるいは夫・父親は温和で耐えて世話をしてくれればよいという考え方があるのであろうか。第1のことと関連するのだが、父親不在の家庭にあって家庭生活全般をマネージしていた自分達の母親達の状況も未婚女性の考え方に影響を与えているのではないだろうか。

何れにしても、未婚の女性は将来の夫の父親役割として、＜耐える・世話をする＞など伝統的な母親役割を求めている傾向がある。また、理想とする自分の母像では＜決断性・指導性＞を重視しており、従来から言われている親の役割や特性とは異なる考えや意識があると言えるのではないだろうか。

(3) 他の調査との比較

A 前調査結果¹⁾との比較

いくつかの類似性と差異が認められたので報告する。

①前調査では幼児を持つ母親に対して＜現在あなたは母親としてはどんな母親か＞と質問した。前調査でも平均得点が他と比較して低い傾向があり、母親イメージが鮮明ではなかった。

また、平均値順位においても＜現実的 5.3＞＜感情表現の豊かな 4.9＞＜思いやりのある 4.7＞＜共感的 4.7＞である。前調査の「ややそう思う」傾向を示す10項目内に、今調査のややそう思う傾向を示す上位7項目が含まれており、前調査と今調査の結果に類似した傾向が示された。

今回の調査対象の未婚女性の母親イメージには、現在子育て中の母親達(30～40歳台)が描く母親イメージと類似した傾向があるといえよう。

②因子分析の結果の比較(表2-4)

今調査及び前調査では質問項目及び配列ともに同じである。前調査結果では他の因子名を与えたが、今調査と類似性が見られた因子に関しては今調査の因子名で命名し直して比較をした。

以上の結果について次のように考察した。

*前調査では対象が既に幼児を持つ母親であるが、現在自分がどのような母親であるかということについては、第1因子が[包容的情緒性]であり、第2因

子が[自己犠牲的養育性]であった。子どもを持つ母にとって世話をすることは日常的なことなので養育性に関することを特に意識するというよりは、母親としての態度を意識的に問い直す場合には情緒性の方がより重みをもってイメージされるのではないだろうか。他方、未婚女性が母親をイメージする際に、まず世話をすること[養育性]を重視していることは興味深い。

平均値の特徴でも比較したが、未婚の女性も現在子育てをしている30代の母親達も、母親としての自分をイメージする時、包容性をもって世話をする母親像であり、両者ともどちらかと言うと「優しいタイプの母親」イメージしていると考えられる。

* (志向像)では、今調査及び前調査においても自己犠牲的養育性ではなく献身的養育性が抽出されたことが類似している。

しかし、第1因子は今調査では[意志的行動性]であり、前調査では[包容的情緒性+献身的養育性]である。このように未婚女性の方がより意志的行動性がある母親を志向しているといえよう。

* (期待像)では二つの調査結果が同じ傾向を示し、第1因子及び第2因子とも同じであり、社会が期待する母親像は温和で良く世話をし、かつ快活で指導性のある母親像で、両者ともに[しっかり者タイプの母親]のイメージを持っている。

B その他

蘭⁶⁾は、1988年に女子大生を対象に自分の母親に対する母親イメージと自分自身が理想とする母親イメージについて調査した。我々の調査とはその内容は異なるが、興味深い因子分析の結果が示されている。

この研究によると、自分の母親と理想の母親の両方に存在する共通イメージは、＜献身的で包容力があり安定したもの＞である。自分の母親イメージには＜苦勞性＞を見ているが、理想の母親像では苦勞性は抽出されていない。理想の母親像には母親の基本的部分を継承し、かつ＜可愛い・暖かい・明るい等＞という自分にプラスになるイメージを加味していると報告。また、蘭は＜たくましい・強い・安定した要素＞をグレートマザー型母親像としており、この因子は自分の母親にも理想の母親像にも抽出されている。

調査を実施した年代が異なるが、我々の結果と類似した傾向が示されていると考える。それは、自己犠牲的あるいは苦勞性の母親の部分はカットされ、論理的でたくましくそして優しい母親像が、現代の女性に望まれていることである。

4 おわりに

*未婚女性を対象に、親の役割に対する態度・行動の要因を形成すると考えられる母親イメージと父親に望む父親イメージを検討した。

*母親イメージより〔養育性〕・〔情緒性〕・〔行動性〕の因子が抽出された。これらの因子は前調査において乳幼児を持つ母親の母親イメージからも抽出されたことから、これら3つの〔養育性〕・〔情緒性〕・〔行動性〕の因子は、母親イメージの中核的要素と考えてもよいのではないだろうか。

*将来自分になるであろう母親イメージは、〔優しいタイプの母親〕、社会が期待している母親イメージは〔しっかり者タイプの母親〕で、どちらにもやや自己犠牲的な養育性をもって世話をする伝統的な母親像がイメージされている。

そして、志向する母親イメージは、論理的で決断力と指導性のあるイメージで〔キャリアウーマンタイプの母親〕をイメージしている。

*将来の伴侶に望む父親イメージにも、養育性・情緒性・行動性の因子が認められた。

未婚の女性は将来の夫の父親役割として、〈耐える・世話をする〉など伝統的な母親役割を求めている傾向がある。

*対象の未婚女性がイメージする親としての態度・行動には、〔温和で包容的な気持ちを大切に子どもを養育〕をしていきたいというところがある。これは母親像にも父親像にも求めているイメージである。

*調査Ⅲ-1の〔女性の生き方〕の結果では、自分が実際になるであろう生き方は〈結婚をして子どもが成長したあとで再度仕事をする〉といういわゆるM字型のライフプランである。しかし、理想の生き方は〈仕事を続けたい〉とか〈子どもの存在には関係なく自由に人生を考えたい〉等と、ライフプランは様々である。

このように実際よりも理想とする生き方には、主体的に行動したい願望がみられる。まさに、理想とし志向する母親像に描かれた〈主体的に意志をもって行動する〉要素は、未婚女性の人生全般において実現したいという願望として理解できよう。

*また、Ⅲ-1で述べたように、対象女性の結婚観は〔理想的な相手が見つければ結婚するつもり 57%〕であり、理想の条件を満たす相手に出会うことを大切にしていることが分かった。結婚相手の理想条件については今回調査をしていなかったが、家庭生活

観や役割に対する考え方が自分と近いこと等も結婚相手の条件に入るのでないだろうか。もしそうであるとしたならば、未婚の女性は子どもの養育に関することや父親の役割等の考え方に関しても、男性に〔養育的〕な態度があることを理想として望んでいるといえよう。

*晩婚の傾向あることはⅢ-1で示唆された。しかし、結婚に関してモラトリアム的な考えをする傾向があっても、養育性のある親性は認められた。

そこで次年度は、Ⅲ-1における結婚観やライフプランの違い等とⅢ-2の母親イメージの傾向等についてさらに検討を行なう。

＜参考及び引用文献＞

- 1) 千賀悠子他：1992「家庭・出生問題総合調査研究—家庭養育機能と職業生活の両立に関する研究—子育てと仕事の両立を測るための父性・母性の役割」, 日本総合愛育研究所紀要, 第29集, 101-122
- 2) 山口素子：1985「男性性・女性性の2側面についての検討」, 心理学研究, 56, 215-221
- 3) 山口素子：1989「男性性・女性性の2側面についての検討Ⅱ」, 心理学研究59, 350-356
- 4) Cook, E. P., 1985 Psychological Androgyny, Pergamon Press, N.Y.
- 5) 河合隼雄：1967「ユング心理学入門」, 培風館
- 6) 蘭香代子：1989「母親モラトリアムの時代」, 北大路書房
- 7) 蘭香代子：1996「母親はどう育つか—母親イメージの形成と母親役割のリアリティ—」, 児童心理, 658, 17-25
- 8) 青木まり：1986「母性意識から見た母親の特徴」, 心理学研究, 57, 207-213
11, 147-153

IV 結語

晩婚と将来の子どもを産み・育てることとの関連を知るために、若い女性の結婚観と将来の母親としての自己像を調査した。今回は、調査対象をさらに広げると共に、結婚観と母親観の関連を分析する予定である。

表-1-1 中学以降男女共学か別学か (下段は%)

	中学校	高校	短大・ 大学	その他
男女共学	420 77.2	339 62.3	168 30.9	5 0.9
男女別学	65 11.9	145 26.7	358 65.8	6 1.1
その他	2 0.4	8 1.5	18 3.3	1 0.2
無回答	67 12.1	62 11.2	10 1.8	532 97.8
計	544 100.0	544 100.0	544 100.0	544 100.0

表-1-4 結婚に関する考え

	人数	%
結婚するつもりの手相がいるが、条件や環境が整わないので時期を待っている	45	8.1
現在相手はいないが、ある程度の年齢までに結婚するつもり	171	30.9
理想的な相手が見つければ結婚するつもり	317	57.2
一生結婚するつもりはない	4	0.4
その他	9	1.6
無回答	8	1.4
合計	554	100.0

表-1-2 現在誰と暮らしているか

	人数	%
親と	396	72.8
一人で	93	17.1
寮生活	33	6.1
兄弟姉妹だけで	14	2.6
家族以外の同性の人と	1	0.2
親戚の家族と	5	0.9
その他	6	1.1
無回答	6	1.1
合計	554	100.0

表-1-5 結婚したい年齢

	人数	%
24歳までに	90	16.2
25～29歳頃に	356	64.3
30～34歳頃に	28	5.1
40歳頃までに	1	0.2
年齢は関係ない	62	11.2
結婚するつもりはない	4	0.7
その他	7	1.3
無回答	6	1.1
合計	554	100.0

表-1-3 育った家族の構成

	件数	%
核家族	389	70.2
三世代家族	135	24.4
母子	6	1.1
母子と祖父や祖母	3	0.5
父子	1	0.1
その他	14	2.5
無回答	6	1.1
合計	554	100.0

表-1-6 結婚相手の年齢の希望

	人数	%
自分より歳ぐらい年下がよい	12	2.2
自分より歳ぐらい年上がよい	208	37.5
自分と同年齢ぐらいがよい	119	21.5
年齢にこだわらない	193	34.5
結婚するつもりはない	3	0.5
その他	13	2.3
無回答	6	1.1
合計	554	100.0

表-1-7 友人の多くが結婚し自分だけ結婚していない場合、どのように感じると思うか

	人数	%
人は人と考えているので、何も感じないと思う	103	18.6
少しあせりを感じると思う	319	57.6
あせりを感じると思う	90	16.2
かなりあせりを感じて、出来ればすぐにでも結婚したいと思う	23	4.2
その他	13	2.3
無回答	6	1.1
合計	554	100.0

* 「あせりを感じる」合計423（78%）

表-1-8 30歳になって結婚相手が決まっていな場合、結婚に対する周りのプレッシャーが高まったらどう思うか

	人数	%
結婚年齢にはこだわらないので、動揺しないだろう	32	5.8
そろそろ結婚を考えるだろうが、積極的行動は起こさず成り行きにまかせるだろう	335	60.5
結婚相手を見つけるための具体的行動を起こすだろう	120	21.7
理想と多少違ってても、妥協して結婚することを考えるだろう	24	4.3
結婚するつもりはないので、動揺しないだろう	6	1.1
結婚するつもりはないが、多少動揺するだろう	24	4.3
その他	6	1.1
無回答	7	1.3
合計	554	100.0

表-1-9 女性の生き方のタイプ

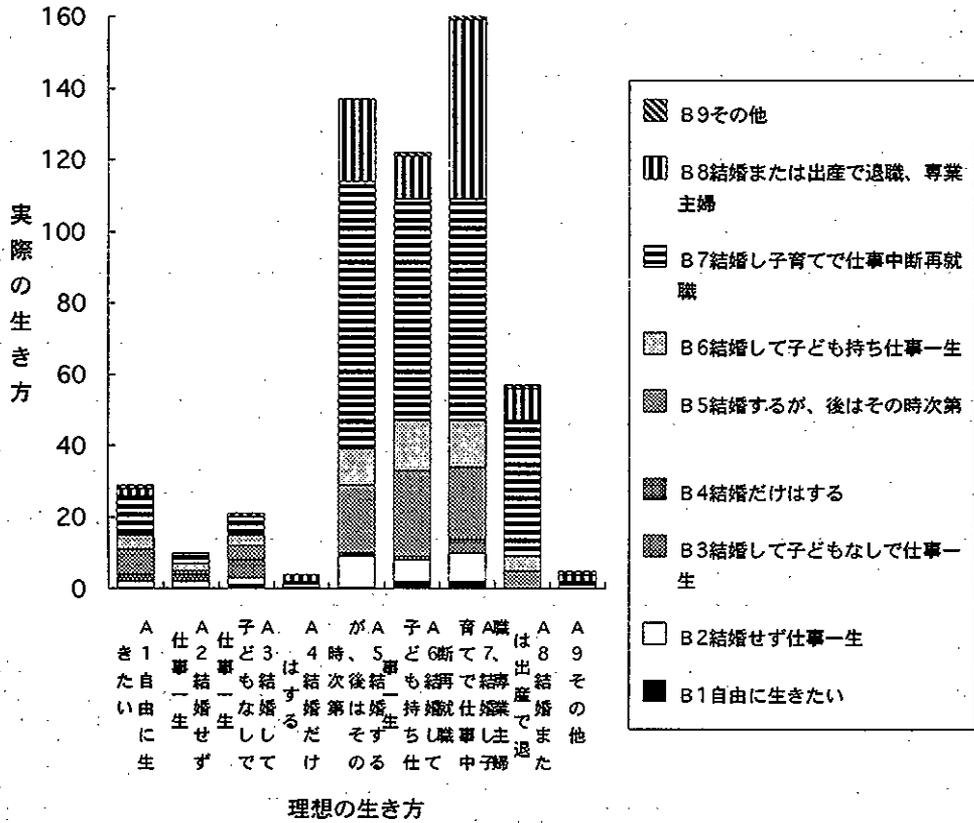
A欄：現実と切り離し、あなたの理想とする人生のタイプ

B欄：あなたが実際になりそうな人生のタイプ

	A：理想		B：実際	
	人数	%	人数	%
1 結婚も仕事もしないで、自由に生きたい	29	5.2	5	0.9
2 結婚をせず、仕事を一生続ける	10	1.8	30	5.4
3 結婚はするが、子どもを持たずに、仕事を一生続ける	21	3.8	14	2.5
4 結婚はするが、子どもを持たず、また特に仕事もしない	4	0.7	1	0.2
5 結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい	137	24.7	80	14.4
6 結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける	122	22.0	50	9.0
7 結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする	161	29.1	259	46.8
8 結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てに機会に退職し、その後は仕事をしない	57	10.3	101	18.2
9 その他	5	0.9	6	1.1
無回答	8	0.9	8	1.1
合計	554	100.0	554	100.0

	生き方選択肢NO	A：理想		B：実際		
		人数	%	人数	%	
結婚	結婚する合計	3+4+5+6+7+8	502	90.6	505	91.2
	結婚しない合計	1+2	39	7.0	35	6.3
	計		541	97.6	540	97.5
子ども	子どももつ合計	6+7+8	340	61.4	411	76.0
	もたない、不明	1+2+3+4	64	11.6	50	9.2
	その時次第	5	137	24.7	80	14.8
	計		541	99.7	540	97.4
仕事	仕事一生	2+3+6	153	27.6	94	17.0
	中断、再就職	7	163	29.1	259	46.8
	中途退職	8	57	10.3	102	18.2
	その時次第	5	137	24.7	80	14.4
	働かない	1+4	33	6.0	6	1.1
	計		541	97.7	540	97.5

図1-1 生き方のタイプ<理想Aと実際B>



	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	計
B1	0	0	1	0	0	2	2	0	0	5
B2	2	2	2	0	9	6	8	0	1	30
B3	2	2	5	0	1	1	3	0	0	14
B4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
B5	7	1	4	0	19	24	20	5	0	80
B6	4	2	3	0	10	14	13	4	0	50
B7	11	3	5	2	75	62	62	38	1	259
B8	2	0	1	2	23	12	50	9	2	101
B9	1	0	0	0	0	1	2	1	1	6
計	29	10	21	4	137	122	161	57	5	546

表-1-10 出生率の低下に関する考え

(上段：実数、下段：%)

	1.非常に そう思う	2.そう思 う	3.少しそ う思う	4.そうは 思わない	無回答	合計
1 非婚・晩婚によって出生率が下がると、日本の労働力が低下して、経済に悪影響を及ぼす	32 5.8	123 22.2	247 44.6	114 20.6	8 1.4	554 100.0
2 結婚は個人の自由な選択によるものだから、国や社会が口を出すべきではない	203 36.6	242 43.7	83 15.0	18 3.2	8 1.4	554 100.0
3 日本の人口が減っても、世界的規模で見ればむしろ増えているので、問題ではない	14 2.5	71 12.8	145 26.2	315 56.9	9 1.6	554 100.0
4 日本は土地が狭いので、人口は減った方がよい	12 2.2	52 9.4	184 33.2	298 53.8	8 1.4	554 100.0
5 出生率が下がると、高齢人口を支えられなくなる	239 55.1	133 30.6	46 10.6	16 3.7	0	434 100.0

表-1-11 非婚・晩婚が増えた理由に関する考え

(上段：実数、下段：%)

	1.非常に そう思う	2.そう思 う	3.少しそ う思う	4.そうは 思わない	無回答	合計
1 男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのためである	45 8.1	194 35.0	182 32.9	125 22.6	8 1.4	554 100.0
2 異性と知り合うチャンスやゆとりが少ないからである	34 6.1	128 23.1	170 30.7	214 38.6	8 1.4	554 100.0
3 対人関係が苦手な若者がふえたせいである	30 5.4	99 17.9	148 26.7	269 48.6	8 1.4	554 100.0
4 男性が性格的に弱くなったからである	43 7.8	115 20.8	182 32.9	207 37.4	7 1.3	554 100.0
5 マザコン、ファザコンの若者がふえたからである	35 6.3	117 21.1	192 34.7	203 36.6	7 1.3	554 100.0
6 女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである	213 38.5	236 42.6	69 12.5	27 4.9	9 1.6	554 100.0
7 結婚しなくても、セックスが自由にできるからである	26 4.7	108 19.5	137 24.7	276 49.8	7 1.3	554 100.0
8 家事代行やコンビニの普及で一人でも生活していけるからである	27 4.9	139 25.1	171 30.9	210 37.9	7 1.3	554 100.0
9 住宅や子育てなどの環境が整っていないからである	78 14.1	144 26.0	177 32.0	147 26.5	8 1.4	554 100.0
10 親と一緒に暮らしていて不自由さを感じないからである	26 6.0	116 26.7	146 33.6	146 33.6	0 0.0	434 100.0
11 独身生活の方がレジャーを楽しめるからである	84 19.4	177 40.8	135 31.1	38 8.8	0 0.0	434 100.0
12 結婚しなくても特に非難されないからである	31 7.1	145 33.4	147 33.9	111 25.6	0 0.0	434 100.0

(表2-1) 母親イメージの各平均値の順位

No.	将来の母親イメージ	平均値	No.	志向する母親イメージ	平均値	No.	社会が期待する母親イメージ	平均値	No.	あなたが望む父親イメージ	平均値
27	共感的	5.107	17	視野が広い	6.291	22	思いやりのある	6.159	2	家族を支える	6.533
22	思いやりのある	5.047	22	思いやりのある	6.224	25	世話をする	5.937	17	視野が広い	6.495
16	感情表現の豊かな	5.025	16	感情表現の豊かな	5.927	4	包みこむような	5.937	8	決断力のある	6.437
3	現実的な	5.007	20	穏やかな	5.817	26	耐えることができる	5.869	23	頼もしい	6.430
25	世話をする	4.998	4	包みこむような	5.769	12	社会の常識を重視する	5.856	22	思いやりのある	6.397
10	好奇心旺盛な	4.981	27	共感的	5.754	20	穏やかな	5.776	4	包みこむような	6.149
2	家族を支える	4.746	23	頼もしい	5.697	13	献身的	5.741	30	指導力のある	6.018
20	穏やかな	4.670	2	家族を支える	5.623	2	家族を支える	5.739	27	共感的	5.838
15	待つことができる	4.659	1	素直な	5.600	27	共感的	5.692	16	感情表現の豊かな	5.779
1	素直な	4.631	8	決断力のある	5.541	17	視野が広い	5.676	10	好奇心旺盛な	5.773
4	包みこむような	4.576	10	好奇心旺盛な	5.510	15	待つことができる	5.498	20	穏やかな	5.695
26	耐えることができる	4.499	15	待つことができる	5.323	23	頼もしい	5.354	1	素直な	5.615
17	視野が広い	4.480	26	耐えることができる	5.273	29	従順な	5.345	26	耐えることができる	5.486
12	社会の常識を重視する	4.469	25	世話をする	5.137	1	素直な	5.316	3	現実的な	5.439
9	保護的	4.436	6	純粋な	5.142	3	現実的な	5.299	15	待つことができる	5.271
6	純粋な	4.357	30	指導力のある	4.990	5	しなやかな	5.292	6	純粋な	5.223
13	献身的	4.341	28	客観的	4.981	16	感情表現の豊かな	5.251	25	世話をする	5.137
28	客観的	4.327	5	しなやかな	4.927	8	決断力のある	5.140	28	客観的	5.103
14	自分の考えを持つ	4.312	3	現実的な	4.926	6	純粋な	5.137	9	保護的	5.076
23	頼もしい	4.244	13	献身的	4.653	9	保護的	5.137	12	社会の常識を重視する	4.693
19	合理的	4.211	9	保護的	4.500	28	客観的	4.809	13	献身的	4.685
18	依存的	4.065	19	合理的	4.469	30	指導力のある	4.782	19	合理的	4.677
8	決断力のある	3.929	12	社会の常識を重視する	4.364	19	合理的	4.742	11	論理的	4.576
30	指導力のある	3.921	14	自分の考えを通す	4.151	10	好奇心旺盛な	4.289	14	自分の考えを通す	4.461
29	従順な	3.795	11	論理的	4.073	7	厳格な	4.285	5	しなやかな	4.382
11	論理的	3.698	29	従順な	3.800	11	論理的	4.255	7	厳格な	4.371
24	自己本位な	3.656	7	厳格な	3.593	18	依存的	4.075	29	従順な	3.772
5	しなやかな	3.615	18	依存的	3.131	14	自分の考えを通す	3.517	21	支配的	3.121
7	厳格な	3.507	21	支配的	2.610	21	支配的	3.009	18	依存的	2.972
21	支配的	3.058	24	自己本位な	2.552	24	自己本位な	2.576	24	自己本位な	2.695

* 7段階スケール (7.非常にそう思う 6.かなりそう思う 5.ややそう思う 4.どちらとも言えない 3.ややそう思わない 2.かなりそう思わない 1.非常にそう思わない)

* No. — 項目の配列順序

(表 2-2) 各母親イメージ間の相関

	将来像	志向像	期待像
将来像	1.00	0.66	0.63
志向像		1.00	0.78
期待像			1.00

(表 2-3) 〈母親イメージ〉—— 因子負荷量 (Varimax回転後)

〈将来の母親イメージ〉

第1因子		第2因子		第3因子	
13 献身的	0.69922	1 素直な	0.59925	8 決断力のある	0.58505
25 世話をする	0.63938	5 しなやかな	0.59817	23 頼もしい	0.58318
26 耐えることができる	0.62132	20 穏やかな	0.54902	30 指導力のある	0.49200
15 待つことができる	0.48442	6 純粋な	0.53803		
		4 包みこむような	0.51558		
		22 思いやりのある	0.50096		
寄与率	45.05%	寄与率	26.21%	寄与率	14.00%
累積寄与率	45.05%	累積寄与率	71.25%	累積寄与率	85.25%
自己犠牲的養育因子		包容的情緒因子		意志的行動因子	

〈志向する母親イメージ〉

第1因子		第2因子		第3因子	
11 論理的	0.60940	13 献身的	0.66025	6 純粋な	0.63523
8 決断力のある	0.52644	25 世話をする	0.60850	5 しなやかな	0.59351
30 指導力のある	0.51178	29 従順な	0.52470	1 素直な	0.51630
3 現実的な	0.48911			4 包みこむような	0.51056
23 頼もしい	0.48114				
寄与率	50.97%	寄与率	22.44%	寄与率	15.13%
累積寄与率	50.97%	累積寄与率	73.42%	累積寄与率	88.55%
意志的行動因子		献身的養育因子		包容的情緒因子	

〈社会が期待する母親イメージ〉

第1因子		第2因子		第3因子	
26 耐えることができる	0.74815	16 感情表現の豊かな	0.66576	6 純粋な	0.77237
25 世話をする	0.71872	17 視野が広い	0.63434	5 しなやかな	0.71339
13 献身的	0.63735	10 好奇心旺盛な	0.57627	1 素直な	0.55647
29 従順な	0.61961	8 決断力のある	0.49981	4 包みこむような	0.45538
15 待つことができる	0.61449	23 頼もしい	0.49054		
22 思いやりのある	0.59751	28 客観的	0.47998		
20 穏やかな	0.56771	30 指導力のある	0.47084		
27 共感的	0.49706				
寄与率	44.89%	寄与率	31.27%	寄与率	10.97%
累積寄与率	44.89%	累積寄与率	76.16%	累積寄与率	87.17%
温和な情緒性+自己犠牲的養育因子		明朗な情緒性+意志的行動因子		包容的情緒因子	

〈あなたが望む父親イメージ〉

第1因子		第2因子		第3因子	
6 純粋な	0.61869	2 家族を支える	0.69334	24 自己本位な	0.70702
26 耐えることができる	0.59236	8 決断力のある	0.65720	18 依存的	0.69157
15 待つことができる	0.57961	23 頼もしい	0.64776	21 支配的	0.62169
1 素直な	0.54388	30 指導力のある	0.56574	29 従順な	0.48246
20 穏やかな	0.53861	22 思いやりのある	0.53428		
25 世話をする	0.51473	17 視野が広い	0.48344		
5 しなやかな	0.50253	4 包みこむような	0.47036		
13 献身的	0.49008				
27 共感的	0.48391				
寄与率	49.69%	寄与率	23.37%	寄与率	13.88%
累積寄与率	49.69%	累積寄与率	73.05%	累積寄与率	86.94%
温和な情緒性+自己犠牲的養育因子		包容な情緒性+意志的行動因子		非支配的因子	

第4因子	
11 論理的	0.63134
3 現実的な	0.60659
28 客観的	0.56267
19 合理的	0.47972
寄与率	10.00%
累積寄与率	96.93%
理性的因子	

(表 2 - 4) 因子分析の結果の比較

	今調査 (未婚女性)	前調査 (既婚・幼児の母親)
第 1 因子	* 将来像 自己犠牲的養育性	* 現在の自分自身 包容的情緒性
第 2 因子	包容的情緒性	自己犠牲的養育性
第 3 因子	意志的行動性	意志的行動性
* 志向像	今調査	前調査
第 1 因子	意志的行動性	包容的情緒 + 献身的養育性
第 2 因子	献身的養育性	非支配性
第 3 因子	包容的情緒性	意志的行動性
* 期待像	今調査	前調査
第 1 因子	温和な情緒性 + 自己犠牲的養育性	温和な情緒性 + 自己犠牲的養育性
第 2 因子	明朗な情緒性 + 意志的行動性	明朗な情緒性 + 意志的行動性
第 3 因子	包容的情緒性	非支配性 ・ 自己本位 (-) ・ 支配的 (-) ・ 依存的 (-)